

笹川沿岸地区遺跡群

本郷塚原 A 遺跡 現地説明会資料



2018.1.20(土)
主催：藤岡市教育委員会

1. 笹川沿岸地区遺跡群について

ささがわえんがんちくいせきぐん
笹川沿岸地区遺跡群の発掘調査は、県営笹川沿岸地区基盤整備事業に伴って平成 26 年度から発掘調査を実施しています。これまでに古墳時代を中心とする遺跡群が見つかり、藤岡市でも屈指の大集落であったことが明らかになりつつあります。

またこの地域にはこれまでの調査で、古墳時代のさいし祭祀に使われたせきせいもどうひん石製模造品の製作跡や古墳に飾られたはにわ埴輪を焼いた埴輪窯が見つかっており、様々なモノ作りを行っていた地域でした。

2. 本郷塚原 A 遺跡

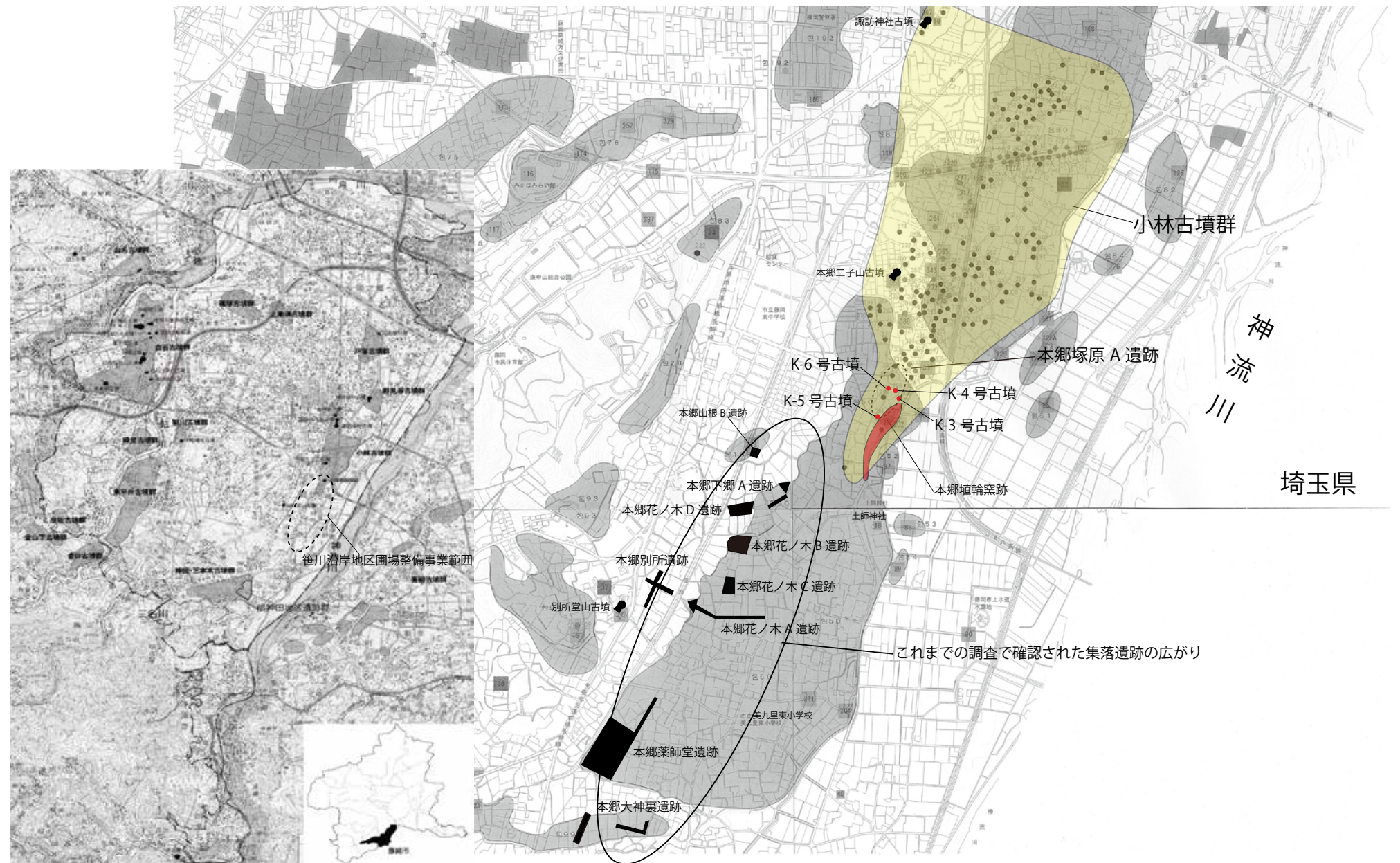
平成 26 ～ 28 年度には、主に古墳時代の人々が住んでいた集落を調査していましたが、平成 29 年度は古墳の調査に着手しました。

本郷地区には数多くの古墳が分布しており、小林古墳群と呼ばれ、100 基程度の古墳が確認されています。

本郷塚原 A 遺跡は小林古墳群の南端に位置し、古墳を飾る埴輪を焼いていた本郷埴輪窯跡と極隣接しています。今回の発掘調査では基盤整備事業に伴う道路建設、整地に伴い古墳が破壊されてしまうため、4 基の古墳の発掘調査を実施しました。



本郷塚原 A 遺跡
の空中写真
(北から撮影)



藤岡市内の古墳群（左）と本郷塚原 A 遺跡と周辺の遺跡（右）

3. 調査中の古墳

K-3 号墳（上毛古墳総覧：美九里村 29 号古墳、藤岡市 200 号古墳）

K-3 号墳は全長 12 m 程度の円墳で、^{えんぶん}両袖形横穴式石室^{りょうそでがたよこあなしきせきしつ}を主体部としており、入り口を塞いだ閉塞が確認されています。西側で^{ふきいし}葺石が確認され、さらに墳丘内にも石列が巡っている特異な造り方をしている古墳です。

石室の壁面は大きい石と小さい石を組み合わせた「模様積」と呼ばれる石室で、藤岡市及び埼玉県北西部でよくみられます。天井石は残っておらず、石室は盗掘されていますが、古墳時代の鎧である^{けいこうこざね}挂甲小札^{てつぞく}や鉄鏃^{こだま}、ガラス小玉が出土しています。



石室から出土した挂甲小札



K-3 号古墳全景

K-4 号墳（上毛古墳総覧：美九里村 29 号古墳、藤岡市 198 号古墳）

全長約 18 m の円墳で、^{むそでがたよこあなしきせきしつ}無袖形横穴式石室を主体部として持つ古墳です。墳丘は浅間山 1108 年の噴火による^{かるいし}軽石で覆われ、その時期には墳丘が削られたことがわかりました。葺石はほとんど残らず、西側で一部確認されています。

天井石と側壁の一部が失われていますが、石室は奥壁に約 2m の大型の^{ぎようかいがん}凝灰岩の一枚岩を使っています。側壁は基本的に自然石乱石積ですが、奥壁側最下段だけ凝灰岩を使用していました。石室からは^{じかん}耳環^{まがたま}、勾玉、鉄鏃、ガラス小玉、人間の歯などが出土しました。



K-4 号古墳全景



検出された石室と奥壁

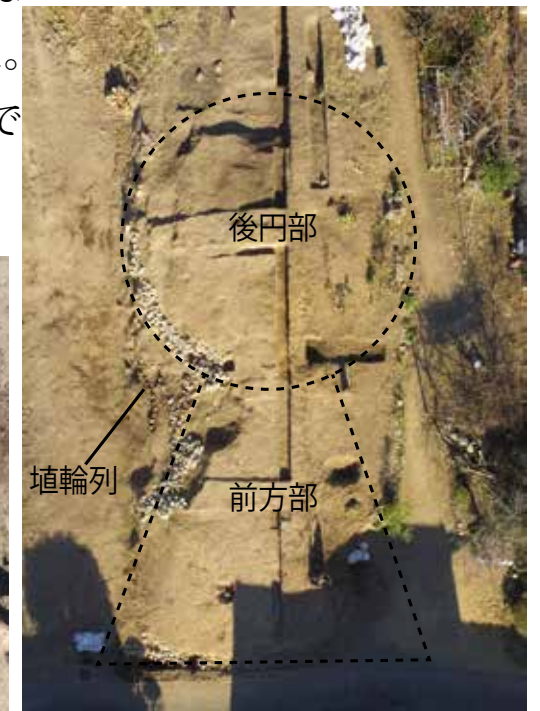
K-5 号古墳（上毛古墳総覧：記載なし、藤岡市 201 号古墳）

円墳と考えられていた古墳でしたが、調査の結果、全長 20m 程度の小型の^{ぜんぽうこうえんぶん}前方後円墳であることがわかりました。全体的に残りは悪いですが、西側で葺石と、くびれ部に^{ふつうえんとうはにわれつ}普通円筒埴輪列が見つかりました。埴輪は 11 個体確認され、密接した状態で据えられていました。おそらくこの埴輪列は本来、古墳を全周していたのでしょう。

石室は横穴式石室であったと思われますが、完全に破壊されており僅かな痕跡しかなく、^{ふくそうひん}副葬品も発見できませんでした。



検出された埴輪列



K-5 号古墳全景

K-6 号古墳（上毛古墳総覧：記載なし、藤岡市遺跡分布図：記載なし）

今まで把握されていなかった新発見の古墳です。円墳と思われますが墳丘は完全に削平されており、横穴式石室や葺石などといったものは発見されず、古墳の周りの^{しゅうこう}周溝だけが検出されました。

周溝の中からは、葺石等が崩れたと思われる河原石とともに大量の^{かわらいし}埴輪^{はにわ}が発見されました。特に周溝の南側で人物埴輪や馬形埴輪が集中していました。人物・馬形埴輪は石室入口の側に^す据えられることが多いことから、この古墳の主体部は南側に開口部を持つ横穴式石室であった可能性が考えられます。



周溝内から発見された人物埴輪



K-6 号古墳全景